

## 残コンの現場処理時代がやってくる



気付けば、もう半袖。全国各地で夏日を記録している。GWに入り、小学1年生の我が娘は早くも5時間授業になっている。

さて、先月号でも触れた三重県の余剰生コン処理の件、その後大阪、岩手と各地で急速に広がっている。

生コンクリート工場で、セメン/砂/砂利/水/混和剤を混ぜて作られた生コンクリートは、2〜5時間で固まりはじめてしまふ為、納品時間最大90分という制約を受けながらアジテータ車で建設現場に運ばれる。

アジテータ車からそのまま現場に流し込まれる方法もあるが大抵の場合ポンプ圧送といって生コンを送り込む装置にいったん移し換えられ、必要な個所に運ばれる。

ここで問題が起きる。生コンは必ず余る。余った生コン、通称「残コン」は

アジテータ車に再度詰め込まれて生コン工場に持ち帰られ、多くの場合、産業廃棄物として処理される。

今まではこの残コンに纏わる全ての事を、生コン業者もしくは圧送業者が「負担」してきた。「負担」とは、その作業、即ち再度アジテータ車に詰め込み、アジテータ車で建設現場から生コン工場（もしくは産業廃棄物処理場）に持ち帰り、産業廃棄物として処理する、その全ての人工、時間、費用を負担してきたのである。なぜなら、注文をくれる「お客様」から、「持って帰って」と頼まれるからであり、他に理由はない。

生コン史上、ずっとこういう風になってきたわけである。

マレーシア生活が長かった私は、なぜ道端にいつも山になったコンクリートがポツン、ポツンと点在していたのか、その理由がやっと分かった次第。

要すれば今回の三重県・鈴鹿生コンクリート販売共同組合から関係者向けに出された通達には、「アジテータ車から排出した生コンはお客様で処理してください」という至極もつともな内容であり、また大変ありがたいことに残コン処理材として我らがセルドロンを想定した文面にしてきている。

今までも各地で残コン処理は話題に上っており、実際、発注側に費用負担させているケースもあるが、ここまで明確に文章化されたのは恐らく初めてのことであろう。

残コン処理材としてのNETIS登録も目前を迎えている。

各地方で同様の声が上がりが、NETIS登録されるであろうセルドロンが、ブレイクしてくれることを大いに期待している。

藤井 成厚



## セルドロンラインナップ

- 5kg 在庫限り
- 10kg
- 100kg 在庫限り
- 300kg

使用量によってサイズを選べます。

セルドロンフェイスブック更新中  
日々セルドロン関係の情報発信しております。過去の事例やお得な情報など更新しておりますのでぜひ確認ください。

# セルドロン採用決定



岩手県の現場でセルドロンの採用されました。昨年からお問合せをいただいております現場でついにセルドロンを納品させていただきました。この現場は、キャンプ場内の造成工事で積雪の影響もあり、工期が延長しております。

四月に入っても降雪がありました。気温が高く雪解け水でぬかるんだ状態になっており重機が傾いてしまうとのことです。

セルドロンを使用して重機が安定するような状態にしたいと考え、配合試験の結果から、 $67\text{kg}/\text{m}^3$ の添加量となりました。セルドロンを五四〇〇キロ納品いたしました。(約七〇 $\text{m}^3$ 処理予定)



## 三重県の「鈴鹿生コンクリート販売協同組合」からのご案内

三重県の

「鈴鹿生コンクリート販売協同組合」

からのご案内

「建設現場で不要となったコンクリート等の取り扱いについて(お願い)」

という案内が3月に出されました。

その案内の一部文章を下記に抜粋いたします。

建設現場において不要となったコンクリート等に対する取扱いにつきましては、地方公共団体毎に様々な対処法が講じられております。三重県では、三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課と三重県生コンクリート工業組合(以下「工組」という)との協議の結果、「戻りコン、残コンに関するご理解とお願い」に記載されている通りの対応を求められております。

1. アジテータ車から排出された生コンクリート等について

この項目に該当するものとして次のものが挙げられます。

- ・ポンプ打設時に用いる先行モルタル
- ・ポンプ車に残ったコンクリート

以上の汚泥の処理に関する必要事項は、工組の案内文に記載されている通りです。

弊協同組合は、お客様の産廃処理手続きを軽減できるように汚泥(生コンクリート等)の運搬について、お引受けすることを検討いたしてまいりましたが、近隣に汚泥処理の可能な処分場がなく汚泥処理が困難な状況にあります。

従いまして、上記の汚泥はもとよりポンプ車の洗浄後の汚水も含めて、アジテータ車でお引取りさせていただくことができませんのでご了承いただきますようお願いいたします。

**汚泥(ポンプ打設時に用いる先行モルタルやポンプ車に残ったコンクリート)を、アジテータ車で引き受けないということです。**

現場で余ってしまったものは、現場で処理することになります。他の都道府県でも同じような見解になると、多くの残コンが現場に残ります。その場合、硬化させて破碎するのか、産業廃棄物収集運搬可能な車両を準備して処分するのか。それとも、セルドロンを混ぜておいて、碎石のような状態にしておくのか。セルドロンを使うことによって、少量の残コンがすぐに扱いやすくなります。

ぜひセルドロンをお試しください。